

## ヤマネの日内休眠場所と周辺環境との関連

○石田茜(筑波大・生物資源), 門脇正史(筑波大・八ヶ岳演習林), 井波明宏(筑波大・八ヶ岳演習林)

### 1. 背景と目的

ヤマネは日内休眠をすることが知られているが、その場所は定まったものでなく、頻繁に変えていると考えられている。日内休眠の場所には巣箱も利用されていることが報告されているが、巣箱の利用場所にもばらつきがみられた。そこで本研究では巣箱周辺の低層木を中心とした周辺環境に焦点を当て、ヤマネの利用した巣箱と利用していない巣箱の周辺環境を比較することで、ヤマネが日内休眠に選択する環境との関連を明らかにすることを目的とする。

### 2. 調査地および方法

調査は6月から9月にかけて行った。調査地である筑波大学農林技術センター川上演習林は、標高1,350~1,790m、面積約190haの山林地で、約70%がカラマツを主とした人工林で、残りの森林はミズナラ、カンバ類やカエデ類を主とする天然林で構成されている。巣箱は林道や歩道沿いの樹木の地上から1.2m辺りに約20m間隔で取り付けられている。

調査対象となる巣箱は、ヤマネ捕獲データ(玉木 未発表、落合 未発表)を用いて、過去に2回以上利用が確認された巣箱25個を【利用巣箱】とした。【利用されていない巣箱】として1回も利用されたことのない巣箱からランダムに25個選定した。

巣箱周辺の低木については、巣箱の設置された樹木を中心とした半径3mの円形プロット内にある高さ60cm以上の低木にナンバリングし、種、高さ、1/10高さ直径を記録した。巣箱から30m以内に沢がある所は沢までの距離も記録した。

### 3. 結果と考察

利用巣箱では272本、利用されていない巣箱では857本の低木が記録され本数には大きな差が見られた。低木の高さや1/10高さ断面積も解析中である。

また表1より利用巣箱は沢に近いものが多いことがわかる。よって沢までの距離も巣箱選択に影響しているかもしれない。

表1 巣箱から沢までの距離

巣箱No.	巣箱の利用	沢までの距離(m)
217	○	6.62
218	○	1.91
225	○	8
226	○	2.97
227	○	0.273
230	○	1.04
232	○	15.08
233	○	17.83
344	○	12.68
346	○	5.12
387	○	11.79
389	○	3.95
391	○	14.02
414	○	22.27
415	○	17.72
427	○	6.72
437	○	8.4
439	○	3.3
371	×	29.93
374	×	23.53
423	×	2.73